



長野県立 子ども病院だより

No.21
平成24年1月12日発行



日本医療機能評価機構
当院は日本医療評価
機構の認定病院です

長野県立子ども病院理念

わたし達は、未来を担う子ども達のために、質が高く、安全な医療を行います。



新年のご挨拶

長野県立子ども病院 病院長 原田 順和

皆様、あけましておめでとうございます。平成24年の始まりにあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと、3月の東日本大震災に続いて、長野県北部地震、また6月には松本を中心とした震度5弱の地震が次々と起こり、我々人間たちの手の届かない存在が、我々に警告を与えているようにさえ思えました。

さて、長野県立子ども病院では、独立行政法人化2年目を迎え、皆様方のご協力により、長野県の周産期小児医療における最後の砦としての当院の役割を、遺憾なく発揮できたことと自負しております。昨年末には、多発する呼吸器感染症や、緊急手術症例が重なり、小児集中治療室が満杯となってしまいました。予定手術ができない状態となり、小児集中治療室の運営が危ぶまれる事態となりましたが、職員一丸となったチーム子ども病院により、なんとか難局を乗り切ることができました。このことは、病院職員にとって、新年に向けての大きな自信になったことと思います。これも、長野県各地の皆様方のご支援、ご協力の賜物だと思っています。この場を借りまして、お礼を申し上げます。新しい年に、職員に向け、お願いしたことがあります。それは、常に笑顔で仕事をし、患者さん、その家族の方に接してくださいということです。

長野県立子ども病院が日頃から、周産期、小児医療をまじめに、一生懸命やっていること、優れた治療成績を出していること、またそれにより、周産期小児

医療における最後の砦としてお役に立っていることは、当院を利用している患者さんやその家族の方々にはもちろんのこと、一般県民の多くの皆様方にも十分理解されていることと思います。しかしながら、どんなに良い手術成績、治療成績を出しても、最後に患者さん、その家族の方々に笑顔で満足していただければ、私たちが医療を行う意味は半減してしまいます。親御さんたちが大変な思いをされてもお子さんが“産まれてきて良かった”、大変な手術を何回受けてもお子さんが“生きていて良かった”と、笑顔で過ごしていただくことがとても大切だと思います。職員の笑顔は、患者さんとその家族に伝わります。患者さんとその家族が笑顔であれば、職員にその笑顔が返ってきます。

ともすれば、毎日の臨床現場に忙殺されて笑顔が忘れがちになります。病院職員が笑顔で仕事ができる条件を整えることは、病院管理者としての責務だと考えます。この一年、当院を利用してくださる患者さん、その家族の方々、当院にかかわるすべての皆様方に、病院職員が素敵な笑顔で接することのできるよう努めたいと思います。

最後になりますが、皆様方のこの一年のご健康と、ご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年1月1日

contents

新年のご挨拶	1
ハワイ大学研修	2
小児感染症学会 2011 年度研究プロジェクト 助成金を受賞しました	2
RED ROOFS 活動報告	4

ハワイ大学研修

小児集中治療科 赤嶺 陽子

■概要

平成 23 年 11 月 14 日から 3 日間、ハワイにおいて長野県立病院機構本部研修センター企画の「第 3 回ハワイ大学シミュレーション教育指導者プログラム」に参加しましたので報告いたします。ホノルルにあるハワイ大学併設の Sim Tiki シミュレーションセンターは、全米でも有数の設備を誇る様々なシミュレーション訓練が可能な施設であり、ハワイ大学医学部の学生やレジデント、看護師等のコメディカルを対象として数多くのコースを開催しています。また、シミュレーション教育指導者養成、教育効果や遠隔医療に関する研究も行う施設です。所長は昨年 10 月にこども病院にシミュレーション講演にお招きした Benjamin W Berg 医師で、今回我々が参加した「シミュレーション教育指導者プログラム (Fundamental Simulation Instructional Methods I)」の講師をしていただきました。県立病院機構からの参加者は、医師・看護師・臨床工学師合わせて 11 名で、こども病院から 3 名 (小児集中治療科医師:赤嶺、新生児科:小久保医師、芳賀看護師) が参加しました。

■指導者育成プログラムの内容

コースは、指導方法の基礎を学ぶ内容で以下のような構成になっています。①成人教育とは何か、②なぜシミュレーション教育へシフトしていくのか、③オリエンテーションの方法、④シナリオの作成方法、⑤評価方法、⑥シミュレーション教育効果のエビデンス、⑦シミュレーションの実際、⑧デブリーフィング (振り返り) の方法、これらを講義と実習を行いながら学びました。簡単に内容をご紹介します。

学校教育と異なり、成人は「実用性がある」教育を求め自ら学びます。自己の中に明確な疑問点があり、これを解決すべくモチベーションが高まり、単なる「知識」だけでなく体を実際に動かして「理解」まで高める教育方法が効果的です。講義によって「聞く」だけの知識では人間はほぼ 90% を忘れてしまいますが、実際に体を使って理解した事は 90% が残ります。この考え方が基礎になり、シミュレーター (コンピュータ制御の人形や気管支鏡・腹腔鏡装置) で「出来るようになるまで繰り返し練習する」というステップを踏



んでから実際の臨床で患者様に処置を適切に施すことが出来るようになる、というのがシミュレーションによる成人教育です。特に、救急や集中治療部門、手術室、重症患者を扱う部門では、落ち着いていれば普通に出来る判断が慌てると全く出来なくなってしまうという事が時に起こります。熟練の医師であれば冷静に正確な判断が可能ですが、経験の少ない医師・看護師は、正確な判断が出来ない事もあります。この様な部門では、一定の頻度でシミュレーション教育の手法を用いてチームトレーニングや意思決定トレーニングを行う事が、緊急時にも慌てずに対応できる能力の育成に効果的です。

この時に、もう一つのポイントは「デブリーフィング (振り返り)」です。例えば心肺停止患者発生のシミュレーションを 10 分間行つたとします。終了後にこの 3 倍の時間、つまり 30 分程度じっくり時間をかけてチーム全員で「振り返り」を行います。この「振り返り」の中で、チーム全員がどのように感じたか、やりにくいと感じた点は何か、他のチームメイトはどのように感じたか、など互いの意見を分かち合い、「気付く」ことでチームとして相互理解を深める事を目的としていますので大変大事なステップです。

以上が、我々がハワイで学んだ事の一部です。一人のスーパードクターではなく、スーパーチームが求められている今、ハワイで学んだ成人教育の基本が各部門でスーパーチームを形成する一助になれば幸いです。

小児感染症学会2011年度研究プロジェクト助成金を受賞しました

総合小児科・感染制御室 笠井 正志

この度、小児感染症学会総会より 2011 年度研究プロジェクト助成金 (旧、研究奨励賞) を受賞いたしました。大変光栄に存じます。研究タイトルは、「本邦小児臨床現場における血液培養採取状況の把握と複数セット採取の有用性の

検討」です。この研究は、純粋に個人的興味から始まったことです。血液培養検査の診断精度を上げるために、複数セットを採取し、最大許容量の血液を採取するプラクティスが、成人では一般的です。しかし、小児の血液培養のプラ

クティスに関する各種文献を調べてみたところ、海外にも定まったガイドラインもないという事実が判明しました。小児の血液培養は、日常的な検査であるにもかかわらず、取り方から採取量まで定まっていないのです。

成育医療研究センター PICU、小児救急科、東京都立小児医療センター PICU、静岡県立こども病院 PICU、亀田総合病院小児科、大阪府立母子医療センター PICU、熊本赤十字病院小児科、京都府立医大病院 PICU と当院 PICU、総合診療部の 8 病院 11 施設の協力を得て、2011 年 8 月 1 日～ 31 日の 1 ヶ月間に、前向きに採取した血液培養すべてについて観察研究を行いました。合計 849 件、1268 セットのデータを収集することができました。

結果で、特に注目すべき有意な結果の 1 つは、穿刺部消毒として、ポピドンヨードを使用した群の方が、コンタミネーション（汚染菌）が多いことでした。ポピドン使用（併用含む）では、陽性菌のうち 56% が汚染菌、ポピドン以外では 19% でした。また、嫌気培養からは、有為な菌は生えず、ルーチンの嫌気培養は不要ではないかと考えられました。全体的に採取量や複数セット採取例は圧倒的に少なく、まだまだ改善するべきポイントもあります。今後はこの結果を元に、「介入試験」を行い、小児領域における血液培養ベストプラクティスを確立したいと考えています。

多施設共同試験は、各施設に赴いての説明会をしたりなど、何かと手間で、またデータの字が読めなかったり、収集の遅延もあるなど、かなり苦労しました。しかし、いろい



ろな施設のやり方を知ることでもでき、とても勉強になりました。協力してくださった先生方への最大の恩返しは、きちんと結果をまとめて、いいジャーナルにアクセプトされることです。ここからがスタートだと考えています。また当科（感染制御室）では、小児感染症の臨床に関わる様々な臨床研究を積極的に実施していきたいと考えています。感染症では疫学情報は極めて重要です。幸い、長野県は非常にまとまっていますので、良質なサーベイランスをできる素地があります。県内の医療施設の皆様と一緒に良質なエビデンスを発信していきたいと存じます。研究のご提案などがございましたら、ご遠慮なく私の方までお知らせください。

(e-mail:kyashii55@gmail.com)

RED ROOFS 活動報告

新生児病棟 鬼澤 典朗

RED ROOFS は、中村副院長を総監督とした軟式野球チームです。メンバーは、医師、看護師、臨床工学技士、診療放射線技師等による多職種メンバーです。基本的に「正式メンバー」という概念はなく、試合があれば寄せ集める方式で活動しています。

1) 始めたきっかけ

平成 21 年に静岡県に遠征し聖隷浜松病院との対戦が始まりました。初めての試合で快勝したため野球チームを結成することになり、まずは帽子と T シャツを作りました。その後、近隣の病院や医療機器販売業者と対戦を行いました。連敗が続き、「これはユニフォームが無いせいかもしれない」との発想でユニフォームを作成しました。主には月 1 回程度の試合を中心に活動しています。

2) 成績

最も大きな成績は、平成 23 年度職員球技大会中信地区ブロックで準優勝になったことです。この試合も寄せ集め 9



人で臨み「1 試合で終わるだろう」と思っていました。しかし、予想外にジャンケンが強かったため決勝まで勝ち進むことができました。

3) 今後の活動

病院内職員間の親睦を深めることを目的に浅く広い活動を続けていきます。「来るもの拒まず、去るもの追わず」の精神で楽しい野球チームを目指していますので、興味のある方は是非参加してください。

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成 24 年 1 月 1 日現在

	外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
南棟外来	整形外科	藤岡 文夫 (AM)	高橋 淳 (PM) ^{※2}	藤岡 文夫 (AM) 加藤 博 ^{※1}	松原 光宏 (AM)	藤岡 文夫 (AM) 松原 光宏 (PM)
	小児外科		岩出 珠幾 (AM) ^{※3} 好沢 克 (AM) 高見澤 滋 (PM)	高見澤 滋 (PM)	町田 水穂 (AM) 好沢 克 (PM)	町田 水穂 (AM) 岩出 珠幾 (PM)
	眼科	非常勤 ^{※4}	視能訓練	視能訓練	北原 博 (1/12) 北澤 憲孝 (1/19)	北澤 憲孝
	総合小児科	南 希成 笠井 正志 ^{※5}	樋口 司	南 希成 (AM) 樋口 司 (PM)	笠井 正志	樋口 司 (AM)
	血液腫瘍免疫科 免疫・アレルギー外来	南雲 治夫			南雲 治夫	
	血液腫瘍免疫科 血液・腫瘍外来	塩原 正明	原 洋祐	塩原 正明 倉田 敬	石井栄三郎 (PM)	塩原 正明 (AM) 倉田 敬 (AM)
	血液腫瘍免疫科 内分泌・代謝外来		竹内 浩一		竹内 浩一	竹内 浩一 (AM)
	循環器小児科	小坂 由道 (AM) 坂本 貴彦 (AM)	安河内 聰 瀧間 浄宏	坂本 貴彦 (AM) 原田 順和	安河内 聰 田澤 星一	瀧間 浄宏 田澤 星一 (AM)
	リハビリ テーション科					笛木 昇 (AM)
北棟外来	脳神経外科	重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)	重田 裕明		重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)	
	泌尿器科 皮膚・排泄ケア外来		下記 ^{※6}			
	神経小児科	平林 伸一 ^{※7}	奥野 慈雨 (AM) 平林 伸一 ^{※7} 平野 悟	奥野 慈雨 (AM) 平林 伸一 平野 悟 (AM)	平野 悟 (AM)	平林 伸一 平野 悟
	小児外科					高見澤 滋 ^{※8}
	新生児科	中村 友彦 (AM) 三代澤幸秀 (AM)	小久保 雅代	廣間 武彦 三代澤幸秀 ^{※9}	廣間 武彦	小久保雅代
	形成外科	野口 昌彦 池上みのり 安永 能周 (AM) 藤田 研也 (PM)		野口 昌彦 池上みのり 杠 俊介 (PM) ^{※10}	野口 昌彦 (PM)	安永 能周 (PM) 野口 昌彦 (PM) 池上みのり (PM)
	麻酔科	大畑 淳 (AM)				
	皮膚科			芦田 敦子 (AM)		
	精神科 こころの診療科				原田 謙 (PM) ^{※11}	
	遺伝科	古庄 知己 (PM)			鳴海 洋子 (AM)	川目 裕 ^{※12}
	耳鼻咽喉科		下記 ^{※13}		出浦美智枝	
	循環器小児科 胎児心臓外来		松井 彦郎 (PM)		瀧間 浄宏 (PM)	安河内 聰 (AM)
	産科	吉田 志朗 (AM) 高木紀美代 小松 篤史 (PM)	高木紀美代 小松 篤史	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 小松 篤史	高木紀美代 小松 篤史
	リハビリ テーション科	笛木 昇 原田由紀子	笛木 昇	笛木 昇	笛木 昇 (AM) 原田由紀子 (AM)	河野 千夏 (AM)

- ※1 整形外科の加藤医師は隔月第3水曜日のみ診察となります。
- ※2 整形外科の高橋医師は第2週のみ診察となります。
- ※3 小児外科の岩出医師は、第1、3、5週です。
- ※4 1/16、2/6・20、3/5・19の診察日となります。1/23は北澤医師の診察日となります。
- ※5 月曜日の笠井医師は、予防接種外来になります。(午後のみ)
- ※6 泌尿器科 午前 週によって、医師が異なります。
午後 皮膚・排泄ケア外来は、第1、5週で西澤医師の診察日となります。
- ※7 月・火曜日の午前中 平林医師は発達障害専門外来です。
- ※8 第2・4週は午前・午後、第1・3・5週は午後のみ診察となります。
- ※9 水曜日の三代澤医師はシナジス接種外来になります。(午後のみ)
- ※10 第3週のみ診察となります。
- ※11 精神科(こころの診療科) 外来の初診は、受付しておりません。
- ※12 1/6・20、2/14・15・24、3/2・14・30の診察日であり、午前11時からの診察となります。
- ※13 耳鼻咽喉科 午後 週によって、医師が異なります。

★診察時間：午前9時～午後4時
★休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始
★受診には、原則として予約が必要です。

予約専用電話

0263-73-5300